



半澤利貞

質問

相次ぐ地震で風評被害は深刻であり、これを克服するための施策を伺います。

- (1) 観光客の落ち込みに対して
- (2) 新たな観光資源の発掘について
- (3) 観光に代わる新産業等について

町長答弁

スキー観光が6割を占める湯沢町だが、平成4年の半分に減ってしまった。スキー離れや豪雪・地震の影響もあるが、恵まれた自然（川や山）を生かし県と一緒にスキー・温泉や酒等を活かし、海外からの誘客に努力している。加山雄三さんを観光大使に任命し、坂本冬美さんの駒子の歌でも町の知名度アップに繋がった。

観光の町の

再生について

た。

新たな観光資源として苗場のゴンドラや多門の大杉、瑞祥庵の雲蝶作といわれる仁王様等、議員指摘の通りであり、点を線で結んで生かしていきたい。

新しい産業については、ノリタ跡地の活用を考えているが、汚染された土壌のため苦慮している。

議員指摘の福祉施設の誘致については、いろいろな人から意見を聞いた中で町の健康保険のからみもあり、難しい。

質問

ガソリンに加算される揮発油税及び道路目的税さらに5%の消費税があるが、国はこの特定財源を一般会計に入れようとしている。交通の利便性のいい都会では車はなくても生活できる

が、地方では一家に3台は普通であり、車庫に車検に税金、塩カルを撒かれて車の寿命は半分。客が来ないと手をこまねいていないで、マイカー利用の若者や地域の人のためにも議会で見解書を出すべきと考えるがどうか。

町長答弁

税の問題は私の範疇ではないが、新三国トンネル等の予算は道路特定財源で作ってもらえるとありがたい。

そうした考えもあると思っている。

三俣地域振興対策について

質問

平成16年3月20日の新聞で、国・県・町、そして地

元の4者で会議もたれたと発表されて久しいが、進捗状況を伺います。

- (1) 国土調査の進捗状況について
- (2) 河川区域の決定時期について
- (3) 道の駅の位置について
- (4) 下水道整備計画について

町長答弁

県の土木部・北陸地方整備局・国土交通省や国会議員にも陳情活動をしてきました。中越地震で既に国土調査の終わった地域の崩壊で国県の予算が取られていることから、平成21年を目標して計画を進めています。

河川区域の決定は県が行うが、国土調査で用地測量ができないと前に進まない。

道の駅の事業実現にあたっては「街道の湯」の借地契約条項の変更承認が前提になるが、整備構想を説明し同意を得たいと考えている。なお、施設の管理運営面において地域の全面的な協力が不可欠であり、これ



三俣地区

から具体的な内容について地元協議会と協議していく。

下水道は特定環境保全で計画しているが、地形の関係で合併処理計画も平行して行う考えでいる。

要望

水没しない方向で決着したわけであり、生まれ育った土地に住む事ができる住民に一日も早く元の生活ができるよう、町長を始めとして地元の要望に添えるよう努力を望みます。